

正月の伝説

(この伝説は都市の民俗研究者が、自分達の住んでいる土地の昔話を掘り出し、書きつづつたものであり「つまり民話」として世に出版されているものの中から、正月に関するものを抜粋させて頂いたものであります)

(1) 正月様とコト様

「正月さんどつからござつしやつた。」
かみのかみからござつしやつた。
紅のよなトト(魚)に雪のよなゴゼン(御飯)に油のよな酒に柿、栗、もちく、と十日町の山地の方ではこんな正月の歌を唄って正月を待つています。
正月さんは沢山の年玉をもつて天竺から下りて来まして。途中で十二月八日のコトの神様と行きあひました(註コトの神様……一年中の仕事の神様だと信じられてる)
コトさんは「正月さん、正月さん、今から里へ行つても何の御馳走もないぜ。私の日の下

のチヂウまで団子にして食べて来たんだから」というと、正月の神様は「あちこたねえ(心配することはない)私が行けば、雪のよなマンマと、紅のよなトトと、油のよな酒が用意してあるはずだ」といつてコトさんと別れて里に降りて来まして。

(2) 年取りに玄関の戸を開けないわけ

旧芦ヶ崎村(現津南町)の山下里部落の、信濃川河岸段丘の高いところに、旧芦ヶ崎村の赤沢にあつた、赤沢城の出城がありました。年取りの夜、この城の殿様が各戸へまわつて来て、それぞれの家の「かいつせつ」の状況を確認し、取り立てる年貢を加減したそうです。それで、玄関の方でガタ／＼と音がすると、村の人は大急ぎで、年取りの膳を片づけて、ご馳走を見られぬようにしたそうです。(津南町山下里)

「かいつせつ」年取りの夜、最中に玄関の戸に棧をかつて人が来て入れないようにするのは、ここに始まつたといういふ伝説です。

りはしてはならないというので、この部落では、ミソカそばを食べません。(川西町赤谷)

正月賀

年取りの時間とそばを作る手数にありませう。そばは一般には、祭につきもの、ご馳走なのです。しかし、この伝説は赤谷の人たちによつて明確に記憶され、すぐ隣の中山田や岩瀬の部落ではそばを食べる年を取つてはならないと信じられてるのです。

(4) シツチンチヨウとハツチンヨウ
昔、中国にシツチンチヨウという鳥がいて、日本へ人を食いに飛んで来ました。途中で海の中にいた大きいダイロ(かたつむり)の角に止りました。すると、そのダイロは「日本にはハツチンチヨウという鳥がいるから、お前なんか行つてもだめだ」と云つてシツチンチヨウを追い返してしまつたといふことです。(川西町霧谷)

最近療養費(医者にかつた経費の全額を支払つた村の国保からその半額をもちらうもの)私件数が非常に多くなつておられますが、療養費は事務を複雑にするばかりでなく切角みなさんにお支払いになつた分については国の補助対象にならず、どちらから見ても非常に損な訳でありますから、医者にかかる場合は必ず保険証を持つてゆき、かつた分の半額だけ支払つて後は村の方に医者から請求して貰うようにして下さい。



所館民館 行公所開社 勇村印刷 中里印町新開社

年頭の言葉

全村民の融和を

中里村長 高橋 幸作



高橋幸作氏

昭和三十六年の新春を迎え、みなさんに心から御祝詞を申し上げます。

私共、中里村も誕生以来六度目の新春を迎え村民各位の一方ならぬ努力と御協力により住みよい郷土の建設に極めて着実な躍進を遂げつゝあることは深く喜びとするところであり、且つ皆様の労を多とするものであります。

然しながら中里村にはなお幾多の重要な懸案事業が山積し、これが処理について今後一層みなさんの心からなる御協力と促進を御期

望みます。昭和三十五年は災害の発生もなく三十三年、三十四年と続いた災害の復旧に努力を注ぎ得たことは、非常に幸せであつたが未復旧の箇所については早期復旧の出

待申上げるものであります。清津川総合開発、高田、松の山、六日町線(十一峠)及び柏崎、湯沢間産業開発路線の貫通と信濃川架橋の新設(宮中えん堤付近)上越西線の敷設等対外的懸案については、多額の国費が伴うので皆さんの御期待に添い得ないものがあります。今後ともよく国策の動向に対応し、各方面の協力を求め、これが実現を期したいものと情熱を燃してゐるものであります。

昭和三十五年は災害の発生もなく三十三年、三十四年と続いた災害の復旧に努力を注ぎ得たことは、非常に幸せであつたが未復旧の箇所については早期復旧の出

年頭の辞

自由の為に生きよ

公民会長 大島 孝平



大島孝平氏

山里は、かすみかゝれる気色にて、空にや春の立つを知るらん
春を望むの声は昔も今も

変らない。厳しい冬の寒さもやがて春限覚えずの準備であつた。明るい社会を作りお互が幸福である様に社会福祉が徹底し、公民館運動が展開して人間の原始的観念である無拘束の自由と高き自由主義とをばき違えるようでは駄目だ。無拘束の拘束は動物に似通つたところがある。自分一人の為に

他を顧みないという事は極めて自由な立場のようであるが、自己内心の奴隷状態であつて不自由の上もなるといふわけはならぬ。然しながら、戦前の強制的道徳を強いるのではなく、例えは、国家が個人の道徳の至上権を左右して無理強いをする。又封建的習慣が其様に人生を批判強制することは民主主義の後退であつて慎まなければならぬ。終戦を動機として、膨湃として巻き起した自由主義

義、民主主義は「己れ自ら与える以外の何物の律法にも服従せぬ」という、この崇高な基本的概念は簡単なものではない。現にあるところの肉体を主とする欲求でなくて自己の身内に伏在せる神性が外界の邪魔物を排除する事である。新しき三十六年、夫は個人としても社会人としても自重、発展すべき年中の御協力を感謝し各位の御健闘を切に御祈申上げて新年の辞と致します。



頌 春

中里村

村営倉庫診療所

- | | | | |
|--------|--------|----------|-------|
| 村長 | 高橋 幸作 | 医師 | 肥後 安宏 |
| 助役 | 滝沢 謙治 | 事務長 | 鈴木 惣勝 |
| 収入役 | 広田富左エ門 | 外委員 | 職員一同 |
| 倉庫員 | 野支所長 | 中里村教育委員会 | |
| 総務主任 | 滝沢 謙治 | 委員長 | 藤田 五郎 |
| 庶務係長 | 富井 喜重 | 委員長代理 | 村山 軍英 |
| 産業係長 | 高橋 文平 | 委員 | 樋口与三郎 |
| 会計係長 | 鈴木 敏雄 | 委員 | 鈴木 謙吉 |
| 土木係長 | 鈴木 与八 | 委員長 | 阿部 英一 |
| 戸籍係長 | 清滝万重郎 | 委員 | 阿部 隆平 |
| 保健衛生係長 | 小柳 定夫 | 書記 | 大島カツミ |
| 厚生係長 | 井ノ川友一 | 書記 | 樋口 和一 |
| 倉庫支所主任 | 高橋 正巳 | 書記 | |
| 貝野支所主任 | 阿部 安栄 | | |

新年の御挨拶

村議会議長 齊喜政治

明けましておめでとうございませう。新春を迎えるにあたり、謹んで全村民各位の御健勝をお祈り申上げ併せて所懐の一端を申述べさせていただきます。旧昭和三十一年度は我が中里村に於きましても大小幾多の問題や事業が御座りました。就中教育関係では田沢中学高山分校の統合に伴う寄宿舎の建築、清津峡小学校の独立、倉俣中学の室内体操場、倉俣小中の給食室の設置等、又産業面では新屋敷林道千五百米、田代林道八百米等、尚土木産業両面に亘る幾多の災害復旧事業の実施及び、衛生関係の村内三地区の簡易水道の布設等其の他の種々の設備事業も、ございましたが、村当局の御努力と村民各位の御協力とによつてそれぞれ実現の域に達しましたことは御同慶の至りに堪えません。此処に衷心より感謝の意を表します。

祝辞

教育委員長 藤田五郎

新年おめでとうございませう。昨年は教育行政の面に於きまして大変多事多難な年でありましたにもかゝらず、村民各位の教育優先主義の熱意により大過なく新年を迎えることができましたことを厚く御礼申し上げますと共に本年も何卒よろしくお願ひ申上げます。さて毎年のこと乍らお正月は大いに日度くお過ごし預きますと共に一年の計を立て、悔なき一ヶ月を過ごすことのできる十分なる心構えをせねばならぬと思うのであります。お正月とはめでたい代表のようなものであります。当局と充分なる連携のもと更に全村民各位の熱心なる御支援とによつて益々平和な住みよい郷土を造る為に微力を捧げたいと念願するものでございませう。何とぞ皆様方の絶大の御協力をお願い申し上げます。いさゝか蕪辭を述べ更に皆様の御健勝をお祈りして年頭の御挨拶と致いたします。

と表現するときにはこの「少しお目出度い」気持ちになることが実態ではないでしようか。殊に文化の進んだ現今のお正月は以前のそれと比較しますと楽しいことだらけ、目出度いことだらけです。お酒は呑み放題、ラジオあり、テレビあり、ダンスもよし、スキーもよし、映画、旅行と遊ぶがままです。特に青年男女の美しい服装、伸々とした態度は我々の青年時代に較べますと、隔世の感があります。実に風爽たるものであります。愉快で愉快で、目出度くてたまらぬという気持ちではないでしようか。その意味に於てお目出度いお正月を謳歌し、お正月が終りましたら、又大いに緊張して活躍しようではありませんか。では皆様うんとお目出度いお正月をお過ごし下さることをお祈りしまして新年の祝辞と致します。

時事用語

◎自然増収
年度当初見積られた租税収入を超えて国庫に入つて来ると見込まれる収入、すなわち何等かの事情によつて当初の見込より増加する部分を自然増収とよんでいるのです。今国会に提出された補正予算の財源の大部分はこの自然増収です。

施設改善について

本年は村内三地区に簡易水道が布設された。小規模づつではあつたが、年々布設されて来たので近年ようやく進展を見せ、住民の生活改善、ひいては新生活運動の為、活気的段階に入つたことを示すものとして、未来の農村発展の為、輝かしい現衆と見るべきである。

漱、整頓に都合のよいこと、仕事に便利であることなどであるが、これらのことについては既に度々述べて来たから、ここで再び繰返す必要はなからう。然し、炊事場の設備については、これまで、余りふれることがなかつたので、特にそれについて述べることにする。

★洗面所
洗面所は井戸の附近に適當な場所を選んで設ける。風呂場を利用し、脱衣場に之を設けてもよいが、採光を充分考え、不潔にならないようにする。だが特に一室を設けることをすすめるわけではないから、井戸端の下流しに洗面台を置いて

なればなるだけ、取扱いが臆怖になつて、却つて思つたほど有効ではないから、考えものである。

一定の場所をつくることに主眼を置くのであつて、たとえば、流れ水で口まですくような原始的な風習をいつまでも続けていることはやめたいものである。洗面器は勿論、手拭迄共同に使用されているのが普通であるが、トラホームの患者などが発生した場合は、嚴重に警戒して伝染しないように全然別のもので使用するようにしなければならない。

★炊事場の高さ
炊事場として第一に必要設備は流しである。流しには上流しと下流しとがある。下流しは多く井戸端にあつて土のついたものを洗つたり、釜や鍋などの下洗いをしたりするものであるから、高さは殊更に高くなくともよい。流れ水を使つてゐる地方では、そこがそのまま下流しの役目をする。上流しは都会のもの、大小あまり気にしなくともよいが、高さは問題になる。縁の深さは、はねた水がかからぬように、手前の方だけでも四寸位は欲しい。そして底の高さは、床の上から、二尺一寸位にする。之が立つまゝで仕事をすると、土間に下駄をはいて

流しの下は空けて置くこと却つて掃除が行届かず、不潔のものとなるから、戸棚などに利用してその下をふさぐ。都会風にそこを冷蔵庫庫にするとか、木炭入れや米入れにすることは、日常使用上、一寸便利なようではあるが、例い方が複雑に

木製の流しは腐れが速く不潔になり易い。そうかといつてコンクリートや石製のものは、器物を破損し易い欠点がある。然し耐久力があるからどちらかといえ、多少高価でもこの方が喜ばれる。この時には底に簧の子を部分的にでもよいから、敷いて置けば、破損の心配は多少なくすることが出来る。

田沢中学校長 佐藤 五郎
倉俣中学校長 高橋 英男
貝野中学校長 徳永 泰三
田沢小学校長 狩野 利雄
高山小学校長 田中富士松
倉俣小学校長 佐藤 剛
貝野小学校長 石沢 藤栄
民生常務委員 大島 孝平
消防団長 鈴木 一郎
青年会長 藤田 敏子
連合婦人会長 高橋 敏子
営林署田沢担当 星 清司

田沢小学校PTA会長 樋口 秀夫
高山小学校 富井寿美雄
倉俣校 齊喜 政治
貝野小学校 齊藤 大馨
清津峡小学校 山本松三郎
田沢中学校 上村 賢造
貝野中学校 羽鳥与五郎
遺族会長 大島 孝平
傷痍軍人会長 上原 国一
身体障害者福祉協会 服部 武男
中里村観光協会 高橋 幸作
狐友会々々 村山 律治
衛生自治会長 中島 迪治
口沢郵便局長 清滝 勝蔵
倉俣 高橋 敏子
貝野 阿部 操
田沢 高主喜三郎
貝野 村田 秀吉
梶原土地改良区 村田 秀吉
珠田土地改良区 廣田 要吉
倉俣南部土地改良区 高橋 幸作
山田 久男
堀之内下島土地改良区 南雲 民一
苗木組合長 村山 重行
緑会々々 小林 ヨリ



中里村公民館
館長 大島 孝平
副館長 佐藤 伍郎
書記 高橋 大馨
三井田 立身
山田 四郎
村山 武

農業協同組合
中里組合長 広田 要吉
専務 上原 国一
外理事職員一同
倉俣組合長 高橋 熊蔵
専務 藤ノ木 利一
外理事職員一同
貝野組合長 羽鳥 隆吉
田沢開拓組合長 外山 進一

中里村議会議長 齊喜政治
副議長 上村 賢造
議員 藤ノ木 利一
鈴木 寛一
上原 国一
鈴木 新作
鈴木 佐十郎
井ノ川 佐平治

農業委員会
会長 高橋 幸作
副会長 高橋 熊蔵
書記 羽鳥 隆吉
服部 輝雄
外職員一同

中里村公民館
書記 外職員一同